

令和6年度進路講演会「人生はわからない」

講師：青森テレビアナウンサー 今泉 清保 氏



7月3日（水）三本木高校および附属中学校全生徒を対象に進路講演会が実施されました。今泉さんは、家計に経済的負担を掛けずに進学したいと考え、高校3年時に国立国会図書館の試験を受け、昼間は職員として勤務しながら夜は大学の二部に通うという大学生活を送りました。端から見ると大変そうですが、今泉さん自身はその生活を楽しんでいたそうです。その後ふとしたきっかけからアナウンサー試験を受け、福岡放送のアナウンサーとなりましたが体調を崩して退職、フリーになってからはNHK含め全ての局のアナウンサーを務めたという経歴について話してくださいました。

後半では、今泉さんが東日本大震災を契機に青森に戻り、青森テレビのアナウンサーとなってから取材したニュース映像をもとに、県内で活躍する4人の方々を紹介してくださいました。

OLを辞め花屋を開業した女性、「おやさいクレヨン」を開発した女性、三沢で規格外のごぼうを使ってごぼう茶を作っている男性、南郷に移住し、アートプロジェクトを行っている男性のエピソードをもとに、『「どうせ〜だから」と考えるのが一番良くない。人生は何に繋がるかわからないのだから、無限の可能性を信じて進んでほしい。』と話してくださいました。バイタリティーあふれる今泉さんのお話は多くの生徒の印象に残ったようです。講演後の質疑応答の時間では、質問した生徒が逆に今泉さんからインタビューを受け、巧みな話術で本音を引き出していく姿に拍手や歓声が上がっていました。

～生徒の感想～

・子どもの頃に小児がんを患っていたり、家庭が裕福でなかったりと少し困難な状況にも関わらず、諦めることなく様々なことに挑戦してみようという態度がすごいなと思いました。私は自分の想定通りにならない行動をするのが苦手な新しいことに挑戦する勇気がなかなかないので、「人生はわからない」という言葉を聞いて自分の想定できない人生になっても良いんだと思うことができました。（高3生）

・私が特に印象に残ったことは2つあり、1つ目は「青森県から一度でも離れると、帰って来た時により良さが分かる」ということです。不安があっても県外に行くのもいいなと思いました。2つ目は「何を始めるにも『遅い』ことはない」ということです。何年生になっても、やってみたいと思ったことはチャレンジしてみようかなと思いました。（中1生）

・昼間働いて夜に大学に行く、というご自身の状況について、恥ずかしく思っているうちは面接に受からなかったが、それをやめると受かるようになった、という話が印象に残りました。自分で自分のことをどう思っているかで人との接し方だったり、相手が受け取る印象だったりが変わるのだなと驚きました。（高1生）

・特に印象的だったことは、講演の中で紹介されていた4人の方々、講師の先生、皆さんが色々な出来事などを経験して、今のお仕事に就いたということです。もちろん、1つの夢に向かって就職するという人もいるのかもしれませんが、僕は過去の経験が一番の強みになると考えました。1つのことに縛られず幅広い活躍が良いのではないかと考えました。（中2生）

・「アナウンサーになるとは思っていなかった」というのを聞いて、自分がしたいことを今全て決める必要はないのだとわかった。そのときに興味を持つものにたくさん挑戦し、納得がいくまでやり通すことが大切だと感じた。学力を伸ばすには受け身な姿勢ではなく、自分から向かう姿勢が必要だとわかった。（高2生）

・アナウンサーとは違う夢を目指して青森を離れ、その場の環境などからアナウンサーとなって東京で活動し、2011年の震災の影響から青森に戻って今に至ることを聞くと、人生は自分の理想どおりに行くとは限らず、その場の状況に応じて新しい出会いもあるということを知って、確かに人生はわからないものだと感じた。また、韓国語を話すお話を聞いたときも、別に幼い頃から学んでいた訳でもなく経験のない状態で人生の半ばで始めたことであっても、韓国人と話し、友好的な関係にまで発展したことに驚いた。自分の可能性を制限せずにとえ遅くとも何かを始めることは可能で、人生の中でいつ学び始めても遅いものはないのだと感じた。（高2生）

共通テストの受験スケジュールについて

参照：「蛭雪時代5月号」

2024年	9月上旬	受験案内配布開始
	9月上旬～10月上旬	検定料等払い込み
	9月 末～10月上旬	出願
	10月末ごろ	確認はがきが到着
	～12月中旬	受験票等が到着
2025年	1月18日(土)・19日(日)	本試験実施・正解等の発表
	1月22日(水)ごろ	平均点等の中間発表
	1月24日(金)ごろ	得点調整実施の有無発表
	1月25日(土)・26日(日)	追(再)試験実施
	2月上旬	平均点等の最終発表
	4月上旬以降	成績通知書が到着(出願時に希望した者のみ)

現役生の場合、共通テストの出願は高校単位で行います。受験料は各家庭で振り込む必要がありますが、願書を取り寄せたり送ったりするのは高校でまとめて行います。

共通テストの日程等は変更される可能性があります。詳細は大学入試センター発表の「実施要項」「受験案内」で確認してください。

国語

新課程入試で「何が変わる？」出題範囲と試験対策

従来の共通テストの国語は、近代以降の文章が2題、古文と漢文が1題ずつの計4題で構成されていました。2025年の共通テストからは近代以降の文章に新傾向の問題が1題加わり、全5題となります。学校の勉強に加えて共通テストの新傾向問題向けの勉強が必要になります。具体的な出題内容としては、総合問題をイメージするとよいでしょう。複数の資料を読み解いたうえで解答する問題は、共通テストでは科目を問わず出題されており、国語の新傾向問題も同様の傾向になると予想しています。対策としては、予想問題集などを取り入れてもいいですし、共通テストの他教科の過去問を解くことも充分に対策になると思います。

また、2025年入試の国語の変更点として、試験時間が10分延長することも挙げられます。追加される1題は、延長される10分間ですらすら解けるような問題には恐らくならないでしょう。そのため、増えた10分間で新規の問題を解くというよりは、他の問題も含めて国語全体の解答時間の配分を見直すのがいいと思います。

地歴公民

地歴・公民の出題科目は6科目に再編されます。このうち「歴史総合・世界史探究」と「歴史総合、日本史探究」は、従来の世界史Bや日本史Bよりも近現代史が多く扱われることになりそうですが、極端に大きな出題傾向の変化はないでしょう。「地理総合、地理探究」は、旧課程と比べると出題内容が広がりますが、学校の勉強をしっかりやっていたら大きな問題はないはずです。注意が必要なのが、「地理総合/歴史総合/公共」を選択する場合です。3つの分野すべてを解答するわけではなく、2つを選んで解答します。地歴・公民から2科目選択する場合、「地理総合/歴史総合/公共」で選んだ分野と同一の名称を含む科目との組み合わせができません。また、東京大や京都大、一橋大などの難関国立大では「地理総合/歴史総合/公共」を選択できません。千葉大や東京都立大などのように、学部によって選択できるかどうか分かれるケースもあります。難関国立大を目指す可能性があり志望校を迷っている人は、選択肢を残す意味で「地理総合/歴史総合/公共」以外の科目を選ぶのがいいでしょう。

数学

旧課程では数学Bにあったベクトル、旧課程では数学Ⅲにあった平面上の曲線と複素数平面がいずれも数学Cに移行します。また、共通テストでは従来の数学Ⅱ・Bが数学Ⅱ・B・Cになります。理系の受験生にとっては実質的な負担はあまり変わりませんが、文系の生徒にとっては負担増となります。ただし、数学Bと数学Cは選択問題です。数学Bの2項目(数列、統計的な推測)と数学Cの2項目(ベクトル、平面上の曲線と複素数平面)から、3項目を選択して解答する形になります。新課程の共通テストⅡ・B・Cは、旧課程の数学Ⅱ・Bと比べて試験時間が10分延長になるため、問題量が多くなることが予想されます。

情報

「情報」は素点で100点なので、2025年度入試以降の共通テストは従来の900点満点から1000点満点に変わります。ただし、「情報」の配点は各大学で異なります。駿台予備校の調査では、「情報」の配点が10%より大きい国立大の募集単位は15%です。大半の国立大では、「情報」の配点は10%以下で、北海道大のように受験は必須であるものの点数化はしない大学もあります。公立大では「情報」が選択科目となっているケースも多く、配点が10%より大きい募集単位は13%です。2025年入試では「情報」の配点は大きくないので、過剰に心配することはありません。受験が後半に入ると、「情報Ⅰ」への不安を煽る世間の声が大きくなるかもしれません。そうすると受験生はどうしても焦ってしまいます。そのため、「情報Ⅰ」対策は早い時期からコツコツ進めておくことをお勧めします。